

新 HP

「自分らしく」

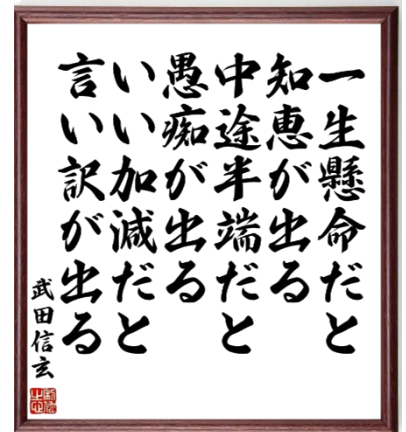
校長 菅谷 和孝

本日、3月14日(金)に本校41期生113名全員に卒業証書を授与することができ、新たな道へ羽ばたいていきました。一人一人の顔を見ながら、私としては共に過ごした1年間という短い間でしたが、様々な光景を思い出しながら直接手渡せたこと、大変光栄に感じておるとともに、感慨深い思いでございます。卒業された41期生の皆さん、そして保護者の皆様、誠にありがとうございました。

1・2年生は3年生のつくり上げた藤久保中学校の歴史を引き継ぎ、新たな1年間(ページ)を記録していくこととなります。以前、校長講話でもお話しさせていただいたのですが、未来とは「未だ来ていない」ということで、自分次第でどのようにも描くことができます。次の1年間をより良いものにするために、出来事を記録していくための日記をつけていくのも大切だと思いますが、これから先、どのようなプランで過ごしていくのかを記載した「未来日記」を書いてみながら、自分自身をより良い方向へ導いていけるように想像してみることもよいかもしれません。卒業生も含め、皆さんにとって令和7年度が、幸多き1年間になることを心から願っております。

そして、別れがあればその分出会いがあります。新しい友、新しい仲間、新しい環境、新しい〇〇と新しいがつく色々な人や物に出会います。その分、不安もたくさんあると思います。それは自然なことで、誰しもが新しいことにチャレンジしたり、足を踏み入れたりするときに必ずと言ってよいほど、受ける感情だと思います。そのような時こそ、「自分らしく」行動するということが大切であると感じるのです。誰もが慣れた環境や、勝手知っている仲間内の方が安心します。誰もが急な変化は望まないと思います。しかし、「前はこうだった」「中学校の時は・・・」と、周囲を自分に合わせようとしても、相当な労力を要します。しかし、自分を俯瞰して見ることができることで、自分の視野が変わり、考えや行動が変わったり、見え方が変化したりすることもあります。つまり、今の当たり前は今後の当たり前と等しいわけではないということです。

何も行動せずにうまくいくわけがない
不平や不満ばかり言ってよいことはおきない
言い訳ばかり言って状況は変わらない
「みんなだって」と言っている人のみんなは、さほどみんなではない
別れがあるから出会いがある
失敗があるから学びがある
苦労したからこそわかることがある
行き詰まることで別の道が拓かれる
うまくいっていない時により沿ってくれるのが本当の仲間
誤りを本気で止めてくれたり修正してくれたらしてくれるのが本当の親友
誰もがよい時もあればそうでない時もある
誰もが辛い時も不安な時も苦しい時もある
変化が激しく何が正解かも分からず前に進んでいくことの多い現代
大切なのは迷いながらも前を向きながら自分らしくいること



これから先、今の常識では考えられない非常識に立ち向かい、何年・何十年か先には、その非常識が常識に代わるような出来事にチャレンジしていく人もいるかもしれません。世の中、尖ったことに関して、自分の常識に当てはめ、無責任な言葉を投げってくる場面に出会うこともあるかもしれません。大抵、自分に責任がない人ほど、言いたいことや思ったことだけを伝えてくるものです(SNS 問題のように)。そのような中でも、「自分らしく」いること、行動することが何よりも大切なことだと思います。藤久保中学校の生徒には、直接的視野だけでなく、間接的視野を広く持ち、多角的・多面的な創造力を膨らませ、出会いを大切に、仲間と協同しながら、自分を信じて、「自分らしく」歩んでいってほしいと思います。

保護者の皆様、令和6年度におきまして、本校の教育活動に多大なるご理解、ご支援、ご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。来年度も教職員一丸となって、保護者の皆様と協力し合いながら、生徒たちの明るい未来に向けた「響育」を行ってまいります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。